

平成25年8月1日

会員各位

協会だよりー248(8月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 9月4日(水) 第218回月例会(見学会)・旭硝子㈱千葉工場見学会を開催いたします。
集合時間: 13:00まで 集合場所: JR 五井駅西口(内房線)
・・・8/16としておりますが会員各位、出欠を早めにお出してください。
- 第219回月例会(一泊研修会)の見学先・日程が決まりました。行程等は調整中です。
開催日: 10月11日(金)～12日(土)
見学先: ①㈱フジクラ佐倉事業所 ②DIC 川村記念美術館
宿泊先: 交渉中



© Takashi Matsuda

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
- 二. 本社移転のお知らせ(ヘレウス㈱殿)
- 三. 事務局より(八年度の予定)
- 四. 【雑学】おくのほそ道ツアー十一・三
放生津、氷見、小矢部・俱利伽羅峠へ

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー247(7月号)をメール&郵便で送信(7/1)
- ② 第217回月例会(講演会)の開催
日時: 平成25年7月3日(水) 15:00～
場所: ニュー新橋ビルB2ホール(講演会)・ビヤホールライオン新橋店2F(懇親会)にて
演題: マイクロリアクターを応用した化学反応
講師: 田中紀子氏(シグマ アルドリッチ ジャパン合同会社)
- ③ 第二回運営委員会
日時: 平成25年7月18日(木) 16:00～17:00
場所: 堺化学工業㈱東京支店

出席：運営委員、第218回幹事会社（川研ファインケミカル、キンキメタル産業）、事務局

議題：1. 見学先：旭硝子千葉工場の見学日時等、

2. 一泊研修会の進展状況

【予定事項】

9月～10月の予定ですが早めにお知らせいたします。

- ① 第218回月例会（見学会）の開催
日 時：平成25年9月4日（水）13時～
見学先：旭硝子~~株~~千葉工場
懇親会：久松本店
- ② 第三回運営委員会
日時：平成25年9月12日（木）16:00～17:00
場所：堺化学工業~~株~~東京支店
出席：運営委員、第219回幹事会社（太陽鋳工、田中貴金属工業、ヘレウス）、事務局
議題：1. 一泊研修会の運営確認。
2. その他
- ③ CMAJ と JCRA の会長、副会長、理事の交流会
日時：平成25年9月24日（火）17:00～
場所：JX グループ六本木クラブ
- ④ 第219回月例会（一泊研修会）の開催
日 時：平成25年10月11日（金）～12日（土）
見学先：~~株~~フジクラ佐倉事業所、DIC 川村記念美術館
宿泊先：交渉中

2. 本社移転のお知らせ（ヘレウス~~株~~殿）

8月12日（月）より下記の場所で業務を行います。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-3 住友不動産音羽ビル1F, 2F, 5F

Tel03-6902-6550 Fax03-6902-6570

〈協会担当者：石丸 順一殿〉

3. 事務局より（8月の予定）

月	火	水	木	金	土
7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3
×	○	○	○	○	×
5	6	7	8	9	10
×	○	○	×	×	×
12	13	14	15	16	17
×	×	×	×	○	×
19	20	21	22	23	24
×	○	×	×	○	×
26	27	28	29	30	31
×	○	×	×	○	×

事務局延べ出勤予定：9日（○；終日、△；半日、×は休日）。

4. 【雑学】奥の細道（11-3）放生津、氷見、小矢部・俱利伽羅峠へ

放生津八幡宮の境内にも苔むした「早稲の香や わけいり右は 有磯海」の句碑が建立されています。しかしこの地区は万葉の里、大伴家持の歌が中心です。左が芭蕉さんの句碑、右の歌碑が大伴家持の歌です。^{あゆのかぜ}東風・・・（東風は北から吹いて豊かな海の幸を運ぶといわれています）



あゆの風 いたく吹くらし 奈呉の海人の
釣りする小舟 こぎいゆる（本来は万葉仮名が
多いため意識）



万葉の風景に富んだ射水市を出発し、芭蕉さん達は氷見に立ち寄ってはいませんが、昼食は海の幸を味わうために氷見市に向かいます。昼食場所は氷見魚市場二階にある、基本的には魚市場の社員食堂であろう「海寶」です。好天に恵まれ今日の昼食時も生ビール（中）を一杯注文！喉を潤す。食事は美味しい海鮮丼定食と相成りました。



昼食も終わり、バスは本日最大のイベント、俱利伽羅峠へと向かいます。

【俱利伽羅峠】

富山県小矢部市桜町より石川県津幡町竹橋まで延びる旧北陸道の県境が俱利伽羅峠で、礪波山の峠です。古来より大伴家持、能因法師、西行、芭蕉も通った道です。俱利伽羅峠が有名になったのは木曾義仲が平家と闘ったとき牛の角に松明を結び付、火を灯して夜襲をかけた火牛の計にあります。

現在この道は源平ライン（歴史国道ふるさと歩道）として小矢部市のハイキングコースとなっています。道は階段状に整備はされているのですが、私たちが訪れた3月14日は、やっと雪が溶けたば

かりで杉の倒木や、落ち葉、かれ枝が散らばり、さらには頂上に近づくとも日陰の道には雪が残り、歩き難いことこの上もない状態でした。バスは迂回して私たちを待っています。約5キロの道のり、腹を決めて歩くしかありません。道の途中には万葉家人の歌碑や芭蕉の句碑が建立されています。

《寝覚塚》峠の手前・猿が馬場にて



義仲の 寝覚めの山か 月かなし (ひるねの種)

この句は、敦賀の手前で武生と敦賀の間にある湯尾峠を越えるとき、燧山を望み詠んだ句と言われています。燧山には義仲の陣地があったと言われています。

義仲が火牛の計により平家に勝利した謂れで句碑を建立したのでしょうか。

猿が馬場には「源平古戦場猿が馬場」の大きな碑と平維盛が軍議を開いた(?)という石のテーブルがあります。このテーブルは自然石としてはあまりにも平滑、かつ巨大で千年の昔から有ったかは疑問ですが。



平家本陣軍図として三位中将維盛、左馬頭行盛、薩摩守忠度、越中権頭範高、上総判官忠綱、河内判官季国、高橋判官長綱で軍議を開いた所と説明がありますが？眉唾では。

さて、少し行くと、デーと二頭の火牛の像が、今にも走り出しそうに設置されています。この像は観光用に設置されたのでしょうか。説明は不要と思いますが、先ずは写真をご覧ください。



火牛の計では、像のようだったのでしょうか。

この散歩道には芭蕉さんの句碑だけではなく、宗祇の句碑も建立されています。おくのほそ道のツアーで訪問した白河での棚倉街道と鹿島街道の分岐点で宗祇戻しの言われもありました。宗祇が鹿島神社での連歌会に行く途中、綿を背負った女に出会い、戯れに「其の綿は売るか」と問いかけた所、女は「大隈（阿武隈）の川瀬に住める 鮎にこそ うるかといえる わたはありけれ」と返答したといわれています。宗祇は大いに驚き恥じてこれより都に帰るといったそうです。連歌の巨匠として名をはせていた宗祇でも、女性の返歌に陸奥の文化の高さに吃驚したのでしょうか。（大高先生のレジュメによる）其の宗祇の句碑です。



もる月に あくるや関のとなみ山 宗祇

渡波平野を一望し、目の下には俱利伽羅不動寺が見えます。いよいよハイキングの終点となります。途中休憩を入れて約2時間の走破お疲れ様でした。不動寺の駐車場にはバスが待機しています。バスは津幡の街を抜け北陸自動車道で小松空港に向かいます。小松製作所の工場を眺めながら約一時間後空港到着。空港の食堂にておろし蕎麦と冷酒で休憩後、JAL便にて羽田空港へと帰宅の途に着きました。次の4月施行・金沢、山中温泉、永平寺、福井市は協会の行事で残念ながら欠席です。5月施行の武生、敦賀、長浜、大垣（おくの細道結びの地）は是非参加しなくっちゃ！

【付録】宗祇戻し

およそ一年前の平成24年3月6日（火）に第五回のツアー《北に向かって陸奥へと（白河の関〜須賀川）》がありました。この時、白河にて宗祇戻しの石碑を見学していたのを思い出しました。白河市旭町の大谷菓子店の横に宗祇の石碑と芭蕉さんの句碑があったのです。天気は良かったのですが句碑の陰にはまだ雪が残っています。



左の石碑が宗祇戻しの石碑です。宗祇戻しの言われは前頁に紹介しましたので芭蕉さんの句碑を紹介いたします。右が芭蕉さんの句碑で「早苗にも 我が色黒き 日数かな」（泊船集）の句が建っています。これは能因法師の有名な和歌である「都をば かすみとともに立ちしかど 秋かぜぞ吹く 白河の関」と能因さんが白河を訪れないで、旅をしたように見せかけるため山家にて顔を日焼けさせたという故事を皮肉っての句といわれています。「田植の季節になりましたが日数を重ねた旅をしてきましたので私の顔も日焼けして黒くなりました。能因さんと同じに。」というような意味です。



右上の看板は大谷菓子店の銘菓の案内板です。大谷菓子店の敷地内かも知れませんが・銘菓 宗祇戻し・銘菓 鮎の唄・銘菓 奥の細道 芭蕉まんじゅうと商売とはいえ宗祇と芭蕉尽くしの命名ですね。確か、おば様方は銘菓を味わっていたように思いますが、私は食べておりません。今思うと食べておけばよかった気がします。（付録終わり）

【文責・専務理事】